

事例に学ぶ

「労働災害事例研究」第42集の発刊にあたり、加盟会社を代表して一言ご挨拶申し上げます。

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会におかれましては、昭和55年（1980年）の発足以来、長きに亘り安全に関わる様々な取り組みを展開され、職長教育や各種講習会の開催、更には「労働災害事例研究」の発行など、労働災害の防止につながる活動を精力的に推進されております。これまで四日市コンビナートにおいて安全意識の醸成や安全管理の向上に多大なるご貢献を頂いていることに対しまして改めて衷心より感謝申し上げます。

2019年末に始まった新型コロナウイルスによる感染拡大は、三年以上にわたり私たちの生活や行動様式に様々な変化を与えました。我々の安全衛生活動も感染リスクを押さえながら従来とは異なる条件下で様々な工夫を凝らしながら活動を展開してまいりました。今年5月には新型コロナの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行し、法的な行動制限などは少なくなりましたが感染そのものが無くなった訳ではありませんので、これまで通り一人ひとりが健康管理には十分留意し日々の安全確保に努めて頂きたいと思っております。また、これまでと同様に一人ひとりが安全に対する意識を高めることも大切です。そのためにも過去の事例に学び危険な状況を危険だと認識する力を養うことが大事です。また、これらの取り組みを次の世代へ伝承していくことも大切です。こうして「労働災害事例研究」が長きに亘り継続的に発行されてきた重みを実感致します。

近年の産業保安の取り組みは官民によるスマート化が積極的に展開され、技術革新やデジタル化に対応して、IoT・AI等の新技術の開発・実証・導入、スマート保安を支える人材の育成、技術革新に対応した各種規制・制度の見直しなどが進められています。四日市コンビナートにおいても各社で様々な取り組みが展開されており、各社間の連携をいかして情報を共有しながら積極的な活用により産業保安のスマート化、更なる高度化を実現していくことが重要です。そのためにも一人ひとりの安全意識の向上や安全文化の醸成が大切になります。人が中心となり魂の入った活動を持続的に展開することで人の安全が確保されると考えます。危険に対する感性が最も重要であり、そのためにも過去の事例に学び一人ひとりがその感性に磨きをかけて頂きたいと思っております。

貴連絡協議会のご尽力により、このたび「労働災害事例研究」第42集が発刊されることになり改めて御礼申し上げます。この「労働災害事例研究」は私たちの身近で発生する災害事例についてイラストを交えながら分かり易く取り纏めて頂いております。本事例集を各職場の最前線で活躍されている方々にまで大いに活用して頂き、四日市コンビナートで働く一人ひとりの事故・労働災害の未然防止につながられるよう心より願っております。

最後に、常日頃からコンビナート各社への多大なるご支援、ご協力を賜っております貴連絡協議会加盟会社各社のご発展と今後の無事故・無災害を祈念しまして発刊のご挨拶とさせていただきます。

「ご安全に！」

令和5年6月

四日市コンビナート地域防災協議会
会長会社
昭和四日市石油株式会社
取締役執行役員製油所長 榎 啓